

倫理

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和5年度（第3回）共通テストの「倫理」の問題作成の方針は次のとおりである。「人間としての在り方生き方に関わる倫理的課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら、先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては、倫理的諸課題について、倫理的な見方や考え方を働かせて、思考したり、批判的に吟味したりする問題や、原典資料等、多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。」

なお、評価に当たっては、14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内容・範囲

第1問 「正義」について（源流思想）

高校生の会話という場面から、「正義」の考え方に関連して、先哲の様々な思想を問う問題設定である。正義の捉え方について、先哲の原典を読み取ることを重視した学習過程から広い視野での考察や議論の必要を伝えている。文章量が大問として適切であり、受験者が勉強してきている分野のため、標準的な難易度の大問といえる。

問1 イスラーム、ヒンドゥー教、仏教、ユダヤ教の基本的な考え方について問われている。各宗教の教義や宗教的義務に関する知識を求めており、五戒の知識がなく単純なイメージで答えてしまった受験者もいるかもしれない。普段から各宗教の原典などから理解を深めていけば、十戒についての正確な判別はできたはずである。

問2 宗教や思想家に基づいた生き方が問われた。パリサイ派やアリストテレス、ジャイナ教、老子についての基礎的な理解で解答できる。

問3 先哲の文章から読み取れる内容と知識を組み合わせる設問。イスラームの共同体や信仰の在り方について、基礎的な理解と読解で解答できる。

問4 イエス、墨家、ブッダについての基本的な知識を問う設問。すべての説明の正誤を判断するため、正確な理解を求められる。これと同様に一定の知識を前提としながら、その理解を現代の出来事や生活に重ねて応用できる思考力・判断力・表現力等を問う出題に期待したい。

問5 先哲の文章から読み取れる内容と知識のそれぞれを問う設問。正しいものをすべて選ぶ9択であったが、基礎的な理解で解答可能である。

問6 先哲の文章から読み取れる内容と知識を組み合わせる設問で、荀子の性悪説の正しい理解が求められる標準的な設問であった。

問7 原典の一部を比較し、内容の読み取りに加えてストア派の自然法思想へのつながりに関する知識が問われた設問。思想史については、用語よりも内容や意味を問うような工夫も考えられる。

問8 会話中の空所に入る文を判断する設問。生徒が先哲の思想を活用して発言しており、知識自体よりもその理解を問う出題の意図が感じられる。選択肢のbの記述内容は正しいと明記されており、大問の主旨や文脈を踏まえて思想のもつ意味が理解できているかが問

われた良問である。

第2問 「問い」について（日本思想）

生徒と先生が交わした会話や、授業で用いられた板書、生徒がまとめたレポートやスピーチ、日記、そして複数の資料を通じて、「問い」をテーマに考えを深めさせる大問である。生徒が課題探究する場面を通じて、多くの初見の資料を読み取り、学習した知識を用いながら主体的に考察させる形式には、日々の授業を探究的な学びに改善することを促すメッセージが含まれていた。教科書での取り扱いが少ない思想家や用語に関するやや難しい知識問題が含まれていたものの、出題範囲は古代から近現代までバランスがよく、全体的には標準的な難易度の設問である。

問1 平安時代の日本の仏教者についての理解を問う、標準的な難易度の設問である。

問2 日本の神々についての理解を問う知識問題であるが、「天つ神」や「祀る神」「祀られる神」については詳しく記述されていない教科書もあり、やや難しい設問である。

問3 中世における念仏思想について、板書と資料を見て答える設問で、aとcは資料を読み取ることで解答できる。bは資料の「名号札」から一遍を指すとわかるが、名号札については記述がない教科書もあるため、難易度が高く正答率が低かった。

問4 伊藤仁斎の説いた「仁」の思想にあてはまるものを、身近な人間関係に即した説明から選ぶ設問であり、既得の知識と資料読解を組み合わせさせた良問である。

問5 吉田松陰の思想について、既得の知識と資料読解を組み合わせさせた設問。③のaは山鹿素行の思想だが、吉田松陰が山鹿流の兵学師範だったことから、ややまぎらわしい選択肢であった。

問6 明六社の思想家についての知識を問う平易な設問であるが、思想家の細かい知識が要求されるため、解答に迷った受験者もいたと思われる。

問7 西田幾多郎の思想についての知識問題だが、「場所」の論理や「絶対矛盾的自己同一」を扱っていない教科書も多く、難易度の高い設問である。難解な知識を問う設問では、資料読解を組み合わせるなどの工夫があることが望ましい。

問8 aは日記の内容を、bは資料の内容をそれぞれ読み取る設問である。三木清は教科書で扱いが少ないが、資料の読み取り自体は平易である。授業で学習した先哲の考え方を手掛かりとして、資料を考察させるなどの工夫があってもよかった。

第3問 自由とは何か（西洋近現代思想）

高校生が「自由」をテーマにしたプレゼンテーションと振り返りを行うという場面設定の中で、西洋近現代思想について問うている。プレゼンテーションの準備段階では自由と制約、規範、自己決定との関係について先哲の思想を手掛かりに探究し、プレゼンテーション後のディスカッションと振り返りによって自由と迷い・弱さとの関係にまで議論を深めている。原典資料の活用に課題が見られるが、「倫理」の授業における探究学習の可能性を示す大問となっている。設問ごとの難易度に差はあるが、全体としてはよくバランスが取れており、標準的な難易度である。

問1 ルネサンス期の人文主義者・芸術家についての基本的知識が問われているが、ラファエロとミケランジェロについて正しい理解が求められる点で、難易度が高い。

問2 私益の追求が公益を実現すると考え、資本主義を擁護することになったアダム＝スミスの思想について理解していれば解答でき、平易である。

問3 ベンサム、ロック、トマス・アクィナスの思想に関する基本的知識が問われている。ただし、グロティウスについて理解が浅いと誤答しやすく、やや難易度が高い。

問4 カントに関する基本的知識があれば、読書ノートの空欄を埋められる設問であった。

問5 パスカルに関する基本的知識と資料の読み取りを組み合わせる設問であるが、知識だけで解答でき、平易である。知識を前提に、資料の一部を空欄にしてそこに書かれている文章を選択するというような出題形式も考えられる。資料の活用についても工夫を期待したい。

問6 すべての選択肢に「顔」という用語があるが、「絶対的に他なるもの」というレヴィナスの他者概念を理解していれば解答でき、標準的な難易度である。どの哲学者を取り上げるかという課題はあるが、思想内容の深い理解を求める良問である。

問7 資料の読み取りによって解答できる。ドイツ観念論や哲学者シェリングについての知識が問われず、また②と④の前半部分がまったく同じで、資料の1行目の記述によりそれらは誤答と分かるため、平易な読解問題となっている。資料はよく精選されたものであるだけにその活用方法に工夫がほしい。

問8 第3問全体の趣旨を問う設問となっている。プレゼンテーションの準備段階（第3問前半）での自由の理解と、プレゼンテーション後の議論（第3問後半）を踏まえた自由の理解の深まりとを両方踏まえる必要があり、自由と制約の関係のみならず、自由と迷いや弱さの関係まで考察させている。標準的な難易度でありながら深い学力が問われる良問である。

第4問 運の違いが生む格差を社会が埋め合わせをするべきか（青年期・現代の諸課題）

「運の違いが生む格差を社会が埋め合わせをするべきか」という現代の倫理的諸課題について、会話や資料を基に知識や読解力を問う大問である。読解力を問う設問が四つあり、時間がかかった受験者もいたと考えられる。基礎的知識を問う設問については、教科書で触れられることの少ない先哲も出題されており、資料読解や考察をさせることで解答できるよう工夫されたい。

問1 現代社会の生活に関する用語の設問である。教科書に記載の少ない用語ではあるが、日常でも使用する用語であるため、難易度としては標準的である。

問2 青年期についての心理学者の用語に関する難易度の高い設問である。「心理的離乳」の用語は判別できるが、教科書に記載の少ない先哲と比較する場合は、より明確な手掛かりが必要である。

問3 マシュマロ実験についての資料読解の設問である。大問の主題に沿った良問であるが、倫理の知識が無くとも解ける問題であり難易度としても平易である。読解に基本的な知識を組み合わせるなど工夫されたい。

問4 アマーティア・センの思想とモノカルチャー経済に関するやや難易度の高い設問である。モノカルチャー経済については、用語として考えれば「倫理」の科目から離れているように感じるが、現代の諸課題として考えれば「倫理」の出題として適切である。

問5 文化や宗教についての理解をはかる標準的な難易度の設問である。用語の知識があれば正答は難しくない。

問6 ロールズの思想の理解と資料の読解の二つが必要な設問である。ロールズの思想については基礎的な内容であるため容易に選択肢を2択に絞ることができ、標準的な難易度である。

問7 「努力と運」に関連付け、グラフの読解をする設問である。丁寧に読解をすれば正答は難しくなく、平易な設問である。資料が2013年とやや古いため、可能であれば最新の資料を用いることができると良い。

問8 マッキンタイア、ボードリヤールについては教科書によっては記載のない哲学者であり、やや難易度の高い設問であった。

問9 冒頭の会話文を前提に、会話文に高校生の考察を当てはめる標準的な難易度の設問である。当てはめる文章も四つあり、内容も考察力を求められる。会話の内容では大問の主題を包括したメッセージ性がある。知識ではなく、読解力のみで正答を導くことができるが、思考力・判断力・表現力等を問う「倫理」の試験には必要な設問である。

3 分量・程度

試験問題の分量は、大問4、総設問数33で昨年と同様の構成である。大問はバランスよく幅広い分野が出題内容として取り上げられており、難易度については適切である。昨年度の共通テストを参考に、時間配分に気を付けていれば時間内の解答ができたであろう。資料問題が11問あり、単なる知識だけではなく受験者の知識を前提とした思考力をはかろうとする問題作成者の意図が読み取れる。設問の中には「倫理」の知識を必要としない設問もあるが、「倫理」という科目が思考を求められる特性上、思考力・判断力・表現力等を意識した設問も必要である。大問ごとにある会話文を設問に関連させる、より一層の工夫を期待したい。基礎的知識を問う設問に関しては、正誤問題や組合せを入れることで受験者の確かな知識をはかることができたと思う。大問ごとに「正義」「自由」「運と努力」など現代の若者が考察していくべき倫理的諸課題をテーマとして取り扱っている。それぞれ受験者へのメッセージ性があり、設問、それに関わる資料を通して受験者には思考を深めてもらいたい。

4 表現・形式

各設問の文章表現・用語について特段の問題はなかった。写真や絵画資料は使われていなかったが、図表の扱いは適切であった。登校中や発表の準備中の生徒同士の対話、授業やその後の生徒と教員の対話、他校の生徒を交えたディスカッション等による会話文形式の設問が多く見られた。また、授業での配付資料だけでなく、生徒が図書館で見つけた資料、生徒が書いた日記やレポート、生徒によるスピーチやスライド等も設問の中に取り入れられていた。主体的、対話的で深い学びが意識され、探究学習の過程が重視された場面設定であり、設問形式であったといえる。特に、問いとは何かを問う大問や、プレゼンテーション後に学びが深まる過程を追う大問があり、今後の授業改善の方向性が示されていたのは意義深い。ただ、原典資料や読書ノート等を扱った設問の中には、基本的知識だけ、あるいは資料の読解だけで正答できるものもあり、さらなる工夫が期待される。全体を通して、正義、自由、格差等、現代における喫緊の課題に、高校生が素朴な疑問や実感から取り組み始め、考えを深めていく姿が描かれ、「倫理」の学びの応用可能性が示されているのは、倫理の本質に照らしても意義あるメッセージとなったはずである。

5 まとめ（総括的な評価）

本年度の共通テストの公民科受験者は174,839人（昨年度は175,000人）であった。そのうち「倫理」の受験者は19,878人（昨年度21,843人）であり、昨年度に比べて1,965人減少した。公民科における「倫理」の選択率は11.4%で、センター試験の令和2年度11.0%、共通テストの令和3年度11.3%、昨年度12.5%と比較して、一昨年の水準に戻っている。出題においては、授業において生徒が主体的・協働的に学習する場面や、倫理的な諸課題を発見し、解決方法を構想する場面、そして、資料を基にして考察する場面が設定されており、高等学校等における授業が知識の一方的な伝達だけに留まらないよう、改善を促すメッセージとして受け止められた。また、対

話を通じて問いを深め、資料を考察する設問は、「倫理」という科目の特性に鑑みて適切であった。資料問題の読み取りについては、学習した知識を交えるなど授業で学んだ先哲の思想や、倫理的な見方、考え方をより一層活用する設問となるよう改善を望みたい。さらに、基本的な知識を問う設問においては、教科書で採り上げられることが少ない先哲やその思想を出題することで難易度を上げるのではなく、全体的な文章量は抑えつつ、資料や会話文を組み合わせるなどの工夫を求めたい。